



珠算とともに生きて

公認会計士 渡辺 雅子 (旧姓 大石)

私の珠算人生は約20年間の競技生活であり、その後は珠算から離れてしまいました。還暦を過ぎた今では、当時の計算力は随分落ちてしまいましたが、珠算で培われた精神と能力は、私の土台であり、ずっと私を支えて助けてくれています。

両親が珠算塾を経営していたことから、3才で九九を覚えて、珠算一筋の幼少期でした。朝は父が読み上げる読上算から始まる。その読み上げる速さについていけず悔し泣きしながら学校に通い、帰りは走って帰宅してソロバンを弾く。塾の練習後は母による読上算が正解になるまで続く。将来の夢はもちろんソロバン日本一。無心に珠算に没頭しました。しかし、そんな私も高校になると反抗的になり、部屋に閉じこもって練習を拒否し、隠れて勉強し東京の大学に進学しました。

資格は、20才のとき日本珠算連盟主催段位十段合格。競技大会では、中・高校時代に地元の福島県一、東北一。大学時代は東京のトップ選手たちと一緒に練習し、国民大会に都道府県対抗競技メンバーとして出場し入賞しました。選手仲間との出会いと交流はとてありがたい大切な思い出です。また読上算競技の日本一になることができ、このときは父に恩返しできたと心から安堵しました。例えば種目別競技であれ、子どもの時からの夢が叶ったと思えたことは、やればできると自信になり、両親への感謝でいっぱいでした。一方、総合競技では練習の成果を大会で思うように出せず、幾度も挫折や涙を味わいました。

大学卒業後は、4年間都市銀行でSEとしてシステム開発に従事したのち、システムと数字に強いことを生かして公認会計士になろうと決心。1年半の勉強の末に合格し、大手監査法人のトーマツに入りました。育児と仕事の両立をなんとかこなし、30年間勤務。そのうち13年間はパートナー

として監査責任者を務めました。その後、上場会社の社外役員（第一三共(株)監査役、(株)サカタのタネ取締役）を拝命して4年が過ぎます。

この間、様々な業種の多くの経営者の方々と面談し議論を交わしてきました。なかには、会計処理をめぐって相手が感情的になる厳しい交渉も。しかし、競技大会で味わった緊張感に比べたらなんてことはない。静かに自分のやるべきことに集中し誠実に対峙する、何十回と出場した大会で鍛えた胆力です。また、もう一つ珠算から得た大きな財産は、“目の力”です。いくら膨大な会議資料であっても、一心に集中して資料を速読で読破し、要点を捉え問題点を見逃さない。誰よりも早い。見取暗算の特訓で培った目の速読力、集中力は今でも衰えることはありません。

私生活では現在、テニス、ヨガ、ゴスペルに勤しんでいます。テニスは15年前から個人指導も受け練習していますが、もともとスポーツが苦手で加齢の体力低下もあり、思うようにはいきません。でも、進歩する喜びや仲間やコーチへの感謝を感じながら前進しています。また、55才の時に出会ったヨガは、自律神経を整えるうえでも私にとって必要なものであり、若者に混じりヨガ学校に通いインストラクターの資格を取得しました。

やりたいことにまっすぐ突き進む心、自分に限界を作らず、信じてあきらめず続けられる力もまた、珠算人生を通して得た宝物です。これからも、学校から走って帰宅した小学生の頃の情熱そのままに、やりたいことに挑戦を続け、自分の世界を広げていきたい、どんな出会いが待っているか楽しみです。珠算はたくさんの力を私に与えてくれました。この素晴らしい珠算が末永く伝承され、一人でも多くの子どもたちが珠算を学んでよかったと実感してくれることを心から願っています。